

だい かいかわさきくくみんかいぎ ぶかい 第5回川崎区区民会議みんなのまちづくり部会

にちじ へいせい ねん がつ にち もく ご じ ぶん
日時：平成26年1月30日（木）午後6時30分
ばしょ かわさきくやくしよ かい かいがいぎしつ
場所：川崎区役所7階1階会議室

1 かいかい 開会

2 ぎだい 議題

(1) ほうこくじこう 報告事項

あ こんご しんぎすけじゅーる しりょう
ア 今後の審議スケジュールについて（資料1）

(2) しんぎじこう 審議事項

あ だい き さいしゅうほうこくしよ あん しりょう
ア 第4期最終報告書（案）について（資料2）

い ちいき みぢか ぼうさいりょく しりょう
イ 地域で身近な防災力について（資料3）

う こみゅにていばすどうにゆう そくしん しりょう
ウ コミュニティバス導入の促進について（資料4）

はいふしりょう 【配布資料】

- しりょう こんご しんぎすけじゅーる
資料1：今後の審議スケジュールについて
- しりょう だい き さいしゅうほうこくしよ あん
資料2：第4期最終報告書（案）
- しりょう ちいき みぢか ぼうさいりょく
資料3：地域で身近な防災力について
- しりょう かわさきく ちいきこうつう かん あんけーと しゅうけいそくほう
資料4：川崎区における地域交通に関するアンケート（集計速報）
- べっし だい きかわさきくくみんかいぎいいんめいぼ
別紙1：第4期川崎区区民会議委員名簿
- べっし ぶかいざせきひょう
別紙2：みんなのまちづくり部会座席表

ねんど 年度		へいせい ねんど 平成25年度											
つき 月		がつ 4月	がつ 5月	がつ 6月	がつ 7月	がつ 8月	がつ 9月	がつ 10月	がつ 11月	がつ 12月	がつ 1月	がつ 2月	がつ 3月
ぜんたい かいぎ よてい 全体会議(予定)			だい かい 第1回					だい かい 第2回		だい かい 第3回			だい かい 第4回
くみん かいぎ ふおーらむ よてい 区民会議フォーラム(予定)									11/23				
せんもんぶかいよてい 専門部会(予定)		だい かい 第1回			だい かい 第2回		だい かい 第3回		だい かい 第4回		だい かい 第5回	だい かい 第6回	
みんなの まちづくり ぶかい 部会	① ちいき みじか ぼうさいりよく 地域で身近な防災力	かだい かい けつさく 課題解決策の けんとう 検討			かだい かい けつさく 課題解決策の けんとう 検討		かだい かい けつさく 課題解決策の しゅほう けんとう 手法の検討		くみん かいぎ 区民会議 ふおーらむ フォーラム		さいしゅうほうこく 最終報告 と 取りまとめ	さいしゅうほうこく 最終報告 と 取りまとめ	さいしゅうほうこく 最終報告 と 取りまとめ
	② こみゆにていばす どうにゆう そくしん コミュニティバス導入の促進	かだい かい けつさく 課題解決策の けんとう 検討			かだい かい けつさく 課題解決策の けんとう 検討		かだい かい けつさく 課題解決策の しゅほう けんとう 手法の検討						
すこやか・ とも い 共に生きる ぶかい 部会	③ ちいき けんこう すいしん 地域における健康の推進	よぼう せつしゅ 予防接種 あんけーと アンケート ないよう 内容の さいしゅうか 最終確認			よぼう せつしゅ 予防接種 あんけーと じつ アンケートの実 し 施		よぼう せつしゅ 予防接種 あんけーと じつ アンケートの実 し 施		くみん かいぎ 区民会議 ふおーらむ フォーラム		さいしゅうほうこく 最終報告 と 取りまとめ	さいしゅうほうこく 最終報告 と 取りまとめ	さいしゅうほうこく 最終報告 と 取りまとめ
	④ こどもをちいき ささき こども 子どもを地域で支える、子ども いのちから 生きる力	だんたいどうし 団体同士が れんけいはか 連携を図れる しく けんとう 仕組みの検討			だんたいどうし 団体同士が れんけいはか 連携を図れる しく けんとう 仕組みの検討		だんたいどうし 団体同士が れんけいはか 連携を図れる しく けんとう 仕組みの検討						
	⑤ がいこじんしんみん す 外国人市民も住みやすいまちづ くり	かだい かい けつさく 課題解決策の けんとう 検討			かだい かい けつさく 課題解決策の けんとう 検討		かだい かい けつさく 課題解決策の しゅほう けんとう 手法の検討						

■ 目次 ■

第1章 地域課題の把握と選定	2
1 区民会議とは	2
2 地域課題の把握	2
3 専門部会の設置	3
4 審議テーマの選定	3
第4期川崎区区民会議 地域課題の把握から審議テーマ選定の流れ	4
第2章 調査・審議結果	6
1 提案(審議結果)の概要 ～地域課題とその解決を図るための方策～	6
2 各提案の内容、審議・取組経過	8
みんなのまちづくり部会	
提案：海拔表示板の設置	8
提案：「防災出前講座」の開催	9
提案：外国人市民を対象とした防災対策の実施	10
提案：新バス路線の提案と検証	11
すこやか・共に生きる部会	
提案：予防接種への理解向上策の検討	14
提案：地域の活動団体同士の情報共有や連携	16
提案：囲碁・将棋を活用した世代間交流の推進	17
提案：多言語(6ヶ国)窓口問答集の作成	18
第3章 資料編	19
1 会議・活動開催経過	
2 区民会議フォーラム	
3 専門部会での検討資料	
アンケート調査結果	
ヒアリング調査結果	
先進事例調査結果	
4 委員・参与名簿	
5 関係規程	

第1章 地域課題の把握と選定

1 区民会議とは

区民会議は暮らしやすい地域社会を目指して、区民が中心となって参加と協働により地域社会の課題の解決を図るために調査審議する会議です。

区民会議は、平成18年4月に施行した「川崎市自治基本条例」の第22条で規定されています。川崎区では、平成17年度の試行から始まっており、この報告書は平成24年度・25年度の2年間の任期とした第4期川崎区区民会議の活動をまとめたものです。

第4期川崎区民会議は、区内の各種市民活動団体からの推薦委員13名、公募委員3名、区長推薦委員4名の計20名の委員で調査・審議を進めてきました。

(委員名簿は資料編■ページ参照)

課題解決へのフローチャートを記載

2 地域課題の把握

審議対象となる地域課題は主に次の2つの方法で抽出しました。

(1) 区民会議委員への事前アンケートの実施

第1回全体会議に先立って、委員への事前アンケートを実施し、委員が日常の生活や市民活動を通じて感じている地域課題を抽出しました。

(2) 平成23年度区民アンケートからの抽出

無作為抽出した18歳以上の区民を対象に実施した「川崎区区民アンケート」の設問、「区民会議の議題として望ましいもの」「川崎区の事業で今後特に力を入れてほしいもの」への回答結果に着目し、区民が感じている地域課題を抽出しました。

(アンケート集計結果は資料編■ページ参照)

3 専門部会の設置

抽出した地域課題をその内容や関連性などから次の8つの分野に分類し、大きく2つのグループに整理しました。そして、それぞれのグループについて、専門部会を立ち上げて集中的に審議することにしました。

専門部会：みんなのまちづくり部会
検討する地域課題の分野 「防災または地域交通環境の向上」 「緑の保全など自然環境または生活環境の向上」 「産業の振興、都市拠点の形成」 「文化または観光の振興」

専門部会：すこやか・共に生きる部会
検討する地域課題の分野 「福祉の推進、健康の増進」 「子育て、教育」 「地域住民組織、まちづくり活動、市民自治の推進」 「その他」

4 審議テーマの選定

部会では、課題解決が急がれる地域課題、参加と協働による課題解決に相応しい地域課題について審議し、具体的な審議テーマの絞込みを行いました。

その結果、第4期川崎区区民会議で取り上げる地域課題を次のとおり決定しました。

みんなのまちづくり部会
審議テーマ 「地域で身近な防災力」(歴史・環境から学ぶ) 「コミュニティバス導入の促進」(観光と福祉の促進)

すこやか・共に生きる部会
審議テーマ 「地域における健康の推進」 「子どもを地域で支える、子どもの生きる力」 「外国人市民も住みやすいまちづくり」

第 4 期川崎区区民会議 地域課題の把握と選定の流れ

■区民会議委員事前アンケートからの抽出課題

分野：防災または地域交通環境の向上 防災…地域防災訓練の推進／防災知識の普及・啓発（特に子どもや外国人）／避難所の充実（見直し）／ハザードマップの周知・活用／防災地域コミュニティづくり／東京湾津波対策 など
地域交通環境…コミュニティバス導入の検討／区内交通体系の検討／歩行環境の整備（歩車分離等安全向上）／自転車の運転ルール・マナーの周知 など
分野：緑の保全など自然環境または生活環境の向上 地域緑化推進／区の花・区の木の利用／区民の環境意識の向上／生活環境の整備／街中の美化 など
分野：産業の振興、都市拠点の形成 区の資源である産業の周知・アピール／産業・商業の活性化／東海道の活性化／東海道を活かした文化・観光まちづくり／羽田空港からの来客を活かした地域活性化 など
分野：文化または観光の振興 歴史的資源を活用した観光振興／多文化を活用した区の魅力づくり／区内観光スポットを回遊する仕組みづくり など
分野：福祉の推進、健康の増進 誰もが安全に安心して過ごせ、歩けるまちづくり／予防接種、住民健診の受診率向上／高齢者が外に出るきっかけづくり、環境整備 など
分野：子育て、教育 子どもの居場所づくり／不登校支援／子どもの健康づくり／子育て支援、地域で子育ての場づくり／国際結婚家庭の支援／スポーツ等を活かした地域での世代間交流の推進／地域の仲間づくり／学校、家庭、地域の交流・連携 など
分野：地域住民組織、まちづくり活動、市民自治の推進 町内会・自治会の活性化／町内会・自治会と市民活動団体の連携／安全・安心、助け合いのまちづくり など
分野：その他 外国人も住みやすいまちづくり／誰もが気軽に音楽を楽しむまちづくり など

■平成 23 年度川崎区区民アンケート

区民会議の議題として望ましいもの （1 位・回答率 69.8%） 区事業で今後力を入れてほしいもの （1 位・回答率 54.9%）
区民会議の議題として望ましいもの （3 位・回答率 44.3%） 区事業で今後力を入れてほしいもの （3 位・回答率 38.9%）
区民会議の議題として望ましいもの （7 位・回答率 14.9%） 区事業で今後力を入れてほしいもの （5 位・回答率 31.7%）
区民会議の議題として望ましいもの （5 位・回答率 17.2%） 区事業で今後力を入れてほしいもの （7 位・回答率 22.6%）
区民会議の議題として望ましいもの （2 位・回答率 50.6%） 区事業で今後力を入れてほしいもの （2 位・回答率 49.2%）
区民会議の議題として望ましいもの （4 位・回答率 32.5%） 区事業で今後力を入れてほしいもの （4 位・回答率 38.3%）
区民会議の議題として望ましいもの （6 位・回答率 16.4%） 区事業で今後力を入れてほしいもの （6 位・回答率 27.6%）
区民会議の議題として望ましいもの （8 位・回答率 3.0%）

■専門部会の立ち上げ

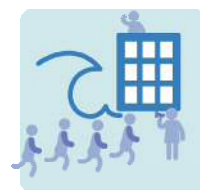
■審議テーマと選定理由(部会での主な意見)

みんなの まちづくり 部会

審議テーマ：地域で身近な防災力

<選定理由>

- ・ 区民アンケートにも現れた防災に関する問題意識の高さ
- ・ 歴史から学んだ防災、津波発生時の避難方法検討の必要性



審議テーマ：コミュニティバス導入の促進

<選定理由>

- ・ 第3期川崎区区民会議による審議の継続
- ・ 福祉や観光の視点を導入したコミュニティバスの具体的なルートの検討

すこやか・ 共に生きる 部会

審議テーマ：地域における健康の推進

<選定理由>

- ・ 川崎区の予防接種、住民健診の受診率の低さ（特に予防接種は市内でも最下位）
- ・ 外国人市民（市内で最も多い）に対する予防接種や住民健診の効果的な案内の必要性



審議テーマ：子どもを地域で支える、子どもの生きる力

<選定理由>

- ・ 子どもが生き抜く力を身に着けることの必要性



審議テーマ：外国人市民も住みやすいまちづくり

<選定理由>

- ・ 学校や地域とのコミュニケーションに困難性を抱えている外国人市民の存在
- ・ 外国人市民が必要な情報伝達の充実



第2章 調査・審議結果

1 提案（審議結果）の概要 ～地域課題とその解決を図るための方策～

■審議テーマ

■課題

みんなのまちづくり部会



津波をはじめとする水害に対する区民の防災意識の向上

区民の防災知識を高める

外国人市民の防災対策



区内移動交通手段の改善による福祉や観光、生活環境の向上

すこやか・共に生きる部会



予防接種の受診率



地域で子どもを支える環境づくり

地域で世代交流の場をつくる



区役所窓口での外国人市民への効果的な情報伝達

■第4期川崎区区民会議の提案

提案：海拔表示板の設置

[詳細■ページ](#)

4ヶ国語表記で設置地点の「海拔」と「浸水深」を表示したプレートの作成
町内会・自治会掲示板等を中心に区内全域に設置

提案：「防災出前講座」の開催

[詳細■ページ](#)

臨海部の行政機関や企業の防災対策などを伝える講座の開催
区民のニーズに答えて、出前方式での開催

提案：外国人市民を対象とした防災訓練の実施

[詳細■ページ](#)

外国人市民に災害の実態や対策の情報を伝える防災訓練を開催
外国人市民が地域の人と知り合い、災害時に助け合える環境づくり

提案：新バス路線の提案

[詳細■ページ](#)

川崎駅を基点とした公共・商業施設等の周回ルートを提案
関係機関へ打診

提案：予防接種への理解向上策の検討

[詳細■ページ](#)

予防接種率向上につなげる効果的な広報

提案：地域の活動団体同士の情報共有や連携

[詳細■ページ](#)

子どもに関わる地域の活動団体同士の情報共有や連携の仕組みづくり
情報交換会の開催

提案：共通のツールを活用した世代間交流の推進

[詳細■ページ](#)

地域の年配講師による子ども教室を開催し、世代交流を推進
学校への出前形式や地域施設での開催を目指して検討・準備

提案：多言語(6ヶ国語)窓口問答集の作成

[詳細■ページ](#)

6ヶ国語(英、中国、韓国朝鮮、ポルトガル、スペイン、タガログ)に対応した区役所における窓口問答集(Q&A)の作成

まとめられた提案は区長に報告された後、行政と地域、それぞれの役割と責任のもとで連携しながら、地域での実践につなげていきます。

2 各提案の内容、審議・取組経過

提案名	海拔表示板の設置	
専門部会	みんなのまちづくり部会	
審議テーマ	地域で身近な防災力	

■提案内容

- ・ 区内の町内会・自治会の掲示板や公共施設等に、設置地点の「海拔」と「浸水深」(最新の地震被害想定による津波の最高到達点の高さ)がわかる表示を設置
- ・ 外国人市民にも配慮し、多言語表記の表示とする。

■地域課題：津波をはじめとする水害に対する区民の防災意識の向上

- ・ 川崎区は川崎市内で唯一海に面している区であり、大地震発生の際等は津波の被害が懸念される。
- ・ 津波が発生した際は、一刻も早く高い場所に避難する必要があるが、外出時など屋外では、現在地の海拔がどのくらいなのか知ることが難しいと考えられる。
- ・ 区内各所でその地点の海拔や避難ルート等を示した表示板が設置されれば、日常的にそれを目にする区民の水害に対する防災意識の向上の効果も期待できる。

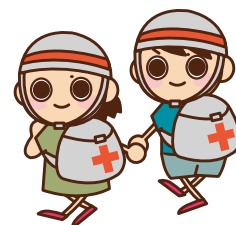
■審議・取組の経過

①表示板の記載・設置場所等の検討内容

- ・ 横浜市、鎌倉市などの先進事例を調査し、審議の参考とした。
- ・ 設置場所は、区内全域を網羅し、区民の目に留まりやすく、比較的設置がしやすいと思われる場所を検討した結果、町内会・自治会の掲示板を中心に設置することとした。
(区内に約1,000の掲示板が街頭や町内会・自治会会館前等の屋外に設置されている。)
- ・ 外国人市民が多く住んでいることから、日本語に加えて英語、中国語、韓国・朝鮮語の計4ヶ国語の多言語で記載することとした。

②表示板の作成・設置

- ・ 審議結果を踏まえて、次のデザイン・記載内容の亚克力製の表示板が作成され、平成25年度から、順次設置されている。



※実際のプレートのサイズは約縦7cm×横30cm

※プレートには、「川崎区区民会議提案」の文字も記載

提案名	「防災出前講座」の開催	
専門部会	みんなのまちづくり部会	
審議テーマ	地域で身近な防災力	

■提案内容

- ・ 臨海部の行政機関や企業の防災対策などを区民に伝える講座の開催
- ・ 講座は区民のニーズに答えて、区民の集まる場所に講師が出向く、「出前方式」とする。

■地域課題：区民の防災知識を高める


- ・ 川崎区の臨海部には、多くの企業の工場や研究施設が立地しており、中には危険物を扱っている大規模工場等の施設も存在する。
- ・ これらの施設では、特に東日本大震災以降、**共同防災協議会の強化**と万全の防災対策を推進しているが、その取組が区民に十分知られているとはまだ言えない状況がある。
- ・ 平成 25 年 11 月に開催した「区民会議フォーラム」では、参加者から臨海部の工場等について、災害時の火災発生などに対する不安や懸念を表明する意見が複数出された。

■審議・取組の経過

①防災講座の内容・形式等の検討

- ・ 審議に先立ち、川崎区役所危機管理担当職員に対する地域防災計画、危機管理地域協議会、自主防災組織などの最新の防災対策に関するヒアリングを実施し、参考とした。
- ・ 区民の臨海部の防災に対する不安を踏まえ、より多くの区民に、臨海部**コンビナートの災害予防対策や災害応急対策について**、知識をわかりやすい形で伝える防災講座を開催することにより、区民の不安の解消やいざという時に正しい対応を目指す方向性を確認した。
- ・ 情報入手のしやすさ、講座受講のしやすさの重要性も指摘され、区民のニーズに答えた出前方式での開催を提案した。地域の町内会・自治会、市民活動団体など**住民**が集まる場所に出向いて、説明・質疑応答などを行う形式である。



提案名	外国人市民を対象とした防災訓練の実施	
専門部会	みんなのまちづくり部会	
審議テーマ	地域で身近な防災力	

■提案内容

- ・ 外国人市民に災害の実態や防災対策の情報を伝える防災(避難)訓練の開催
- ・ 訓練を通じて外国人市民が地域の人と知り合い、災害時に互いに助け合える環境をつくる。

■地域課題:外国人市民の防災対策


- ・ 川崎区には、市全体の約 3 分の 1 の外国人市民が居住している。中には日本語での会話や読み書き、日本の生活習慣に慣れていない方も多くいると考えられる。
- ・ 地震等の災害で想定される状況や対策の知識に乏しい外国人市民がいる。例:「揺れたら、まず頭部を守る」「津波発生の際のある場合は少しでも高い場所に避難する」などの基本的知識がない。「地域の避難場所を知らない」など
- ・ 災害発生時に弱者となり、周囲から孤立したり、誤った対応などで被害を大きくしてしまう外国人市民が発生する恐れがあり、地域が一体となった支援が必要である。
- ・ 日常の生活や活動の中で地域の人と知り合い、災害発生時には互いに助け合える環境づくりが必要である。
- ・ 町内会・自治会等が地域に外国人市民がどれくらい居住しているのか把握していない。

■審議・取組の経過

①区内外国人支援団体関係者へのヒアリング

- ・ 平成 25 年 11 月に開催した区民会議フォーラムの企画の一つとして区内で外国人支援等の活動に関わる区民に参加してもらい、日頃から感じている課題等を伺い、参考とした。
- ・ 平成 26 年 3 月に開催される外国人を対象とした健康診断の場を活用して、防災情報等の外国人への提供を試行する。
- ・ 「外国人市民を対象とした防災訓練には、外国人市民だけでなく、地域の日本人も一緒に参加することが重要であり、その事が互いを知ることにつながり、非常時の助け合いにつながる」などの意見が出された。



提案名	新バス路線の提案	
専門部会	みんなのまちづくり部会	
審議テーマ	コミュニティバス導入の促進	

■提案内容

- ・ 川崎駅を基点とし、公共施設・商業施設等を周回する福祉や観光、生活環境の向上に資する新バス路線の提案
- ・ 関係機関への打診を行う。

■地域課題：区内移動交通手段の改善による福祉や観光、生活環境の向上

- ・ 川崎区は JR 川崎駅を基点とし区内を放射状に網羅するバス路線は充実しているが、区内を横断する路線（例：田島地域・大師地域を直接結ぶ路線）に乏しい。
- ・ 公共施設や福祉・医療施設へのアクセスに、バスの乗り換えや遠回りが必要な地域が存在し、区民のニーズに答えた利便性の高い路線の整備が、第3期以前の区民会議から審議テーマとして取り上げ、検討が続けられてきた。
- ・ しかし、川崎区内には「交通不便地域（半径 1 km以内にバス停などの交通拠点がない地域）」が存在しない現状を踏まえると、新バス路線の導入実現には路線ニーズと採算性確保を明確な形で示すことが必要となる。

■審議・取組の経過

①準備段階

- ・ 新バス路線のニーズ（実際に運行した場合の乗客数）の予測や、採算性確保の目途の面から提案が行き詰まっていた第3期区民会議の審議経過を踏まえ、第4期川崎区区民会議では、公共施設だけでなく、商業施設や医療施設などもルートに組み入れ、福祉や観光、生活環境の向上をねらった路線の検討を進めることとした。
- ・ 地域交通導入の手順について会議で学び、「地域住民等での検討体制の構築」に始まり、「地域ニーズの把握、地域交通の評価」「運行実験」「試行運行」などを経て実現に至るプロセス、必要なステップや取組への理解を共有し、それに沿った取組の検討を進めることとした。
- ・ 川崎市総合都市交通計画（案）に関わるパブリックコメント（意見募集期間：平成25年2月～3月）に、新バス路線の整備、既存のバス路線の充実を訴える意見を提出した。

②新バスルートの提案

- ・ 新バス路線の提案ルートとして、川崎駅を基点に反時計周りで、川崎駅西口、川崎幸病院、新川病院、川崎協同病院などの医療施設、ラゾーナ、さいか屋、イトーヨーカドーなどの商業施設、労働会館、教育文化会館などの公共施設を周回するルートを設定した。（コース図を次ページに掲載）

→次ページに続く

■審議・取組の経過(続き)

提案ルート図



想定バス停留所

A : JR 川崎駅西口北 B : 川崎幸病院前 C : 日進町交差点 D : さいか屋前
 E : 新川橋 F : 南町 G : 川崎運送前 H : 渡田新町 I : 渡田向町 J : 渡田三丁目
 K : 小田栄 L : 大島四ツ角 M : 桜本 (川崎協同病院前) N : 藤崎 4 丁目交差点
 O : 藤崎 1 丁目交差点 P : 労働会館前 Q : 競輪場前 R : 教育文化会館前 S : 市役所前
 T : ソリッドスクエア前

③新バスルートの路線ニーズの検証(1) 試走体験会の実施

- ・平成 25 年 11 月に開催した区民会議フォーラムの企画の一つとして、提案ルートの試走体験会を計 2 回実施した。スケジュールの都合上、上図の A~C、T の停留所を省略したコースでの実施となったが、計 41 名の区民の参加を得た。
- ・参加者を対象に、日常の路線バスの利用状況、新たな路線バスのニーズ、提案ルートを実行した場合の利用の可能性などについて尋ねるアンケート調査を実施した。

④新バスルートのニーズの検証(2) 地域交通に関するアンケート調査の実施

- ・無作為に抽出した区内在住の 16 歳以上の男女個人 1,000 名を対象に、日常の路線バスの利用状況、新たな路線バスのニーズ、提案ルートを実行した場合の利用の可能性などについて尋ねるアンケート調査を実施した。




→次ページに続く

■審議・取組の経過(続き)

⑤アンケート調査の結果のまとめ

⑥アンケート調査結果を踏まえた関係機関への打診

提案名	予防接種の接種率の向上に向けた取組	
専門部会	すこやか・共に生きる部会	
審議テーマ	地域における健康の推進	

■提案内容

- ・ 予防接種の接種率向上につなげる効果的な広報の実施
- ・ 予防接種の重要性などへの理解を深める取組の実施

■地域課題：予防接種の受診率の低い川崎区

- ・ 川崎区は市内でも最も予防接種の受診率が低い
- ・ 高齢化社会が進行する中で予防医療の重要性が増してきており、地域における健康の推進のためには予防接種の受診率の向上が必要である。

■審議・取組の経過

①予防接種に関するアンケート調査の実施

- ・ 予防接種の接種率の低さの原因を探るとともに、予防接種への理解を深めるきっかけとすることを目的として、以下の要領でアンケート調査を実施した。

対 象：地域バランス等を考慮して選んだ次の公立学校

3 中学校（富士見、川中島、桜本）の中学 3 年生、合計 509 名

6 小学校（宮前、旭町、川中島、藤崎、渡田、さくら）の小学 6 年生、合計 521 名

調査期間：平成 25 年 10 月 1 日～31 日

調査項目：予防接種の接種有無とその理由、予防接種の情報の入手方法、
将来的な予防接種の接種意向

※外国人の保護者が多い学校もあることを踏まえ、調査票には全てフリガナをふった。

②アンケート調査の実施結果と考察

回収状況：小学 6 年生 有効回答数 402（有効回収率：77.1%）

中学 3 年生 有効回答数 240（有効回収率：47.2%）

回答傾向

- ・ 接種が望ましい年齢が高い予防接種ほど接種率が下がる。
→年齢が高くなるほど予防接種の情報に触れる機会が少なくなっている。（定期健診や母子手帳を開く機会が無くなる）予防接種のためだけに、病院等まで出かけなければならなくなったなどの原因が考えられる。
- ・ 接種した理由は、ほとんどの予防接種で上位から「病気を予防できるから」、「接種するのは当然」、「行政からの案内を見たから」の順になっている。
- ・ 接種していない理由は、「接種を考えていた時期を逃した」が多い。
→接種の必要性は感じているが、特に子どもの年齢が高くなると予防接種の情報に触れる機会が少なくなっていることや接種へ手間がかかることが原因となっていることが考えられる。

→次ページに続く

②アンケート調査の実施結果と考察（続き）

- ・ 予防接種の情報の入手方法、将来的な情報の入手方法とも、「区役所からの通知」が多い。
 - 情報提供の方法強化で受診率の向上につなげることができないか。
- ・ 日本脳炎ワクチンの接種率は小学生、中学生共に低い傾向がある。
 - ADEM（急性散在性脳脊髄炎）の発生により、平成 17 年 5 月に国から積極的な接種勧奨を控える通知があった影響と思われる。
- ・ 子宮頸がん予防ワクチンの接種率が中学生で低かった。
 - 統計に含んでいる男子を半数と過程すると接種率はそれほど低くない。
小学生の接種率も低い。
 - 平成 25 年 4 月から定期予防接種の対象となったばかりであり、6 月には国の通知で積極的な接種の勧奨を控えていた影響が考えられる。
(グラフ等の 抜粋と、部会検討結果の付記)

提案名	地域の活動団体同士の情報共有や連携	
専門部会	すこやか・共に生きる部会	
審議テーマ	子どもを地域で支える、子どもの生きる力	

■提案内容

- ・ 子どもに関わる地域活動団体同士の情報共有や連携の仕組みづくり

■地域課題：地域で子どもを支える環境づくり

- ・ 子どもの健全育成には、子どもの居場所や、子ども達や親達の悩みの相談場所など、地域で子どもを支える場や環境づくりが必要である。しかし、核家族化や共働き夫婦の増加などにより、地域にこれらの場を見出せない区民が増えている。
- ・ 区内には子ども達に関わる様々な市民活動があるが、これらの団体同士がもっと互いを知って連携することにより、この環境づくりが一層進むと考えられる。

■審議・取組の経過

①情報交換会の実施

試行的な取組（モデル実施）として、大師地域を中心に以下の要領、関係団体の「情報交換会」を実施した。

趣 旨：地域で子どもに関わる活動団体同士の情報共有、連携の仕組みの検討

内 容：各団体の活動内容、課題や今後の取組の発表、意見交換

日 時：平成 26 年 1 月 28 日（火） 18:30～19:30

地 区：大師地区


会 場：藤崎こども文化センター

参加団体：川崎区子ども会育成者連合大師支部育成会

ボーイスカウト川崎地区協議会、ガールスカウト川崎市連絡会、
 大師地区青少年指導員会、大師地区スポーツ推進委員会、
 川中島総合型スポーツクラブ、川崎区社会福祉協議会第 1～4、
 川崎区保護司会大師地区、子ども文化センター（殿町、藤崎、大師）、
 川崎区地域教育会議（大師、南大師、川中島地区）、川崎区 PTA 協議会



②情報交換会の実施結果とそれを踏まえた検討

提案名	共通のツールを活用した世代間交流の推進	
専門部会	すこやか・共に生きる部会	
審議テーマ	子どもを地域で支える、子どもの生きる力	

■提案内容

- ・ さまざまな世代が一緒に楽しんだり、学んだりすることのできるツール(昔の遊びや自然体験など)を活用した世代間交流の場の提供
- ・ 交流を通じて、顔と名前のわかる地域で子どもを支えられる環境をつくることともに、高齢世代などが持つ豊富な経験や知識を学び、子どもが生きる力を育む

■地域課題:地域で世代交流の場をつくる

- ・ 田島地区を中心に行われていたニュースポーツ、カローリングが子どもから高齢者まで年齢、性別、体力に関係なく様々な世代が一緒に楽しめるスポーツであることから、地域の仲間づくりや世代間交流に資する取組であることが分かってきた。
- ・ 子どもの健全育成を助け、地域で子どもを支える視点からもこうした取組の多様化が重要である。

■審議・取組の経過

①世代間交流企画の検討

- ・ 世代間交流の新たな企画を検討した結果、委員の趣味や活動状況から、地域の高齢者を講師に子どもを対象とした囲碁・将棋教室の開催が提案された。
- ・ 囲碁・将棋教室については、他自治体や、川崎区内でも大師地区などで実施例があり、熱心に取り組む子ども、大人を負かすほど負かすほどに短期間で成長する子どもの姿などが報告されている。

②試行教室の開催

- ・ 平成 25 年 11 月に開催した区民会議フォーラムの企画の一つとして、囲碁・将棋体験教室の試行開催を実施した。
- ・ 事前に地域の学校などへ呼びかけを行ったが、当日は子ども 2 名、講師役の大人 8 名の計 10 名の参加にとどまった。この結果から場の提供を検討する上では、多くの子どもの参加が得られるような内容や広報の工夫が必要なことが検証された。



提案名	多言語(6ヶ国語)窓口問答集の作成	
専門部会	すこやか・共に生きる部会	
審議テーマ	外国人市民も住みやすいまちづくり	

■提案内容

- ・ 6ヶ国語(英語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語)に対応した区役所窓口における問答集(Q&A)の作成
- ・ 問答集の作成にあたっては、外国人市民のニーズを把握する。

■地域課題:区役所窓口での外国人市民への効果的な情報伝達

- ・ 川崎区内には多くの外国人市民が住んでいるが、日本語での会話や読み書きに不自由な方もおり、区役所窓口での必要な手続きや対応が円滑に進まないケースが見られる。
- ・ 区役所の窓口で実際に起こったケースや対応方法などの経験や情報の蓄積や引き継ぎが十分に行われていない場合があり、対応に組織差や個人差が見られることがある。

■審議・取組の経過

① 外国人市民に対する窓口対応の円滑化の方法の検討

- ・ 区役所窓口の職員を対象に実際に困ったケースや苦労したケースなどに関するアンケートを実施した。その結果、よくあるケースだけでなく、様々なケースを想定した情報の蓄積、資料の作成等の必要性が明らかになった。
- ・ 多様なケースに円滑かつ柔軟に対応するため、資料は問答集(Q&A)形式でわかりやすく構成するとともに、主な言語を網羅することとした。
- ・ 麻生区で導入事例のある「TV通訳(対面式多言語案内)システム」の調査も行い、導入を検討したが、費用に対して利用実績が少ないなど、コストに見合った効果に至っていない現状が明らかになり、今後の経過等を見守った後に再検討することとした。



ちいき みぢか ぼうさいりよく
地域で身近な防災力について

1 課題解決策の概要

(1) 防災知識を深める

臨海部で進められている企業の安全対策・ルールづくりを知ってもらうため、防災出前講座の開催を推進する。

(2) 防災訓練の推進

外国人市民を対象とした防災訓練の内容の検討

2 今後の審議スケジュール

26年1月（第5回専門部会）：最終報告の取りまとめ

26年2月（第6回専門部会）：最終報告の取りまとめ

3 最終報告の取りまとめ

(1) 防災出前講座の実施

臨海部の行政機関や企業の防災対策などを区民に伝える講座の開催
内容については、資料2「最終報告書（案）」P9のとおり

さんこう
(参考)

東門前小学校避難所開設・運営訓練

日時：2月8日（土）9時～11時50分

内容：避難所開設・運営訓練、

防災講座「川崎臨海部コンビナートの安全対策」

（臨港消防署による講演9時10分～9時40分）

3名まで見学可能

(2) 外国人市民を対象とした防災（避難）訓練の実施

外国人市民に災害の実態や防災対策の情報を伝える防災（避難）訓練の実施

内容については、資料2「最終報告書（案）」P10のとおり

川崎区における地域交通に関するアンケート（集計速報）

配布対象：無作為抽出した川崎区内在住の16歳以上の男女1000名
 実施時期：平成25年12月中旬配布～平成26年1月中旬最終締切
 有効回答数：302（回答率30.2%）

1. 回答者属性

(1) 居住地域(中学校区)

回答	回答数	回答率
川崎中	36	11.9%
川中島中	37	12.3%
京町中	27	8.9%
桜本中	12	4.0%
大師中	30	9.9%
田島中	20	6.6%
富士見中	34	11.3%
南大師中	22	7.3%
臨港中	25	8.3%
渡田中	49	16.2%
不明・未回答	10	3.3%
302		100.0%

(2) 年代

回答	回答数	回答率
20歳未満	2	0.7%
20代	22	7.3%
30代	60	19.9%
40代	43	14.2%
50代	40	13.2%
60～64歳	31	10.3%
65～69歳	27	8.9%
70代以上	76	25.2%
不明・未回答	1	0.3%
302		100.0%

(3) 職業

回答	回答数	回答率
会社員	95	31.5%
公務員	11	3.6%
自営業	14	4.6%
学生・生徒	5	1.7%
主婦・主夫	76	25.2%
パート・アルバイト	30	9.9%
無職	70	23.2%
不明・未回答	1	0.3%
302		100.0%

(4) 世帯

回答	回答数	回答率
単身	44	14.6%
1世帯	213	70.5%
2世帯	39	12.9%
3世帯以上	4	1.3%
不明	2	0.7%
302		100.0%

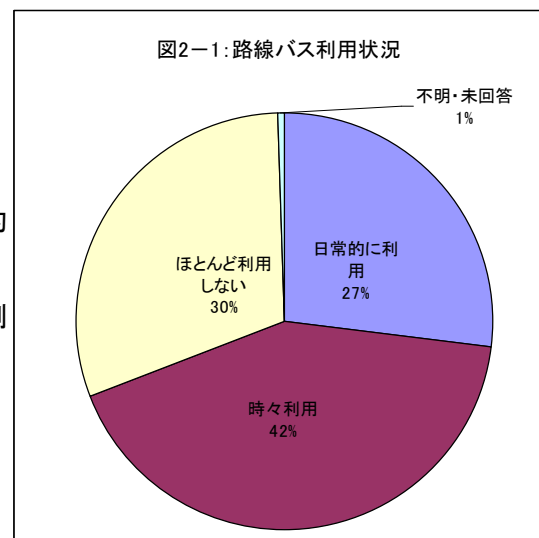
2. 日常の移動について

(1) 路線バスの利用状況

路線バスの利用状況について尋ねた。得られた回答集計結果は以下のとおり。

回答	回答数	回答率
日常的に利用	81	26.8%
時々利用	128	42.4%
ほとんど利用しない	91	30.1%
不明・未回答	2	0.7%
302		100.0%

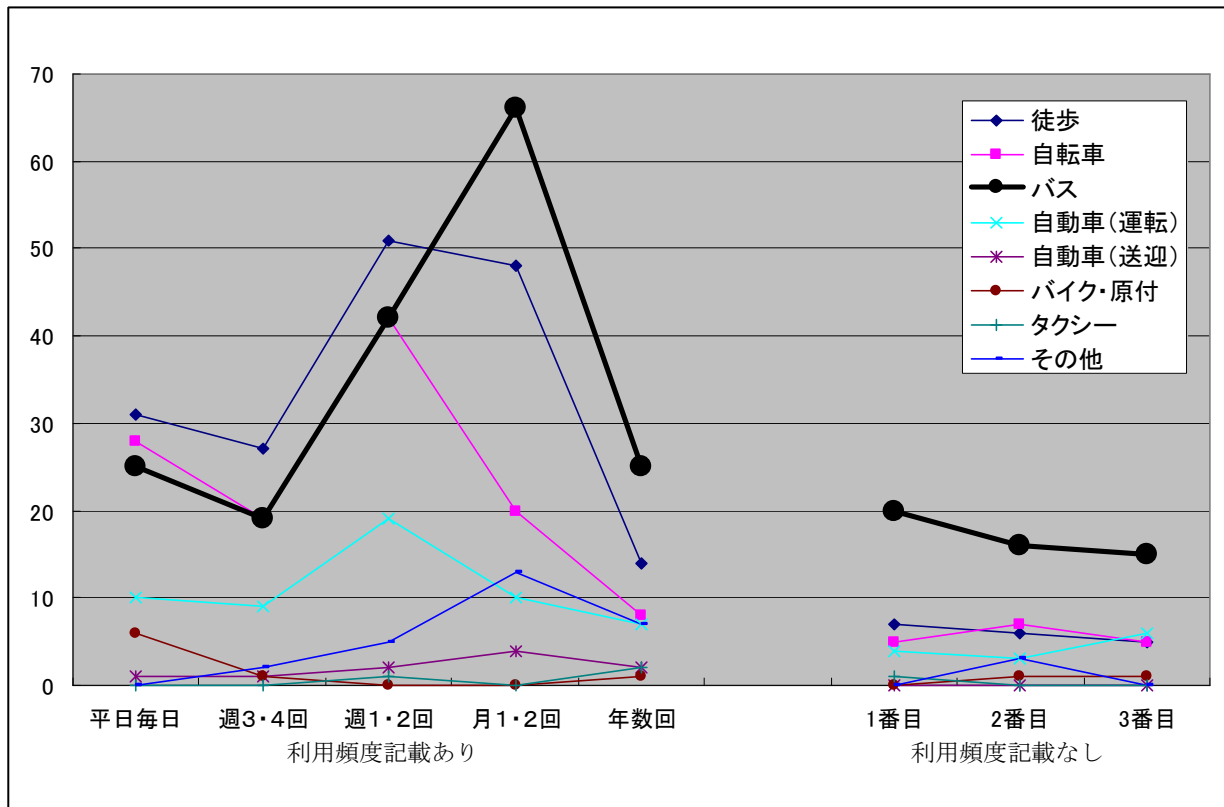
- 日常的にバスを利用していると答えた回答者は約4人に1人。(26%)
- 時々利用している人(42%)とあわせると約7割の回答者が路線バスを利用している。



(2) 日常の鉄道駅／目的地までの交通移動

日常行っている鉄道駅、もしくは目的地までの交通移動について、利用交通機関や目的、利用頻度等を利用頻度の上位3位まで解答欄を設け尋ねた。回答集計結果は以下のとおり。

①利用交通機関

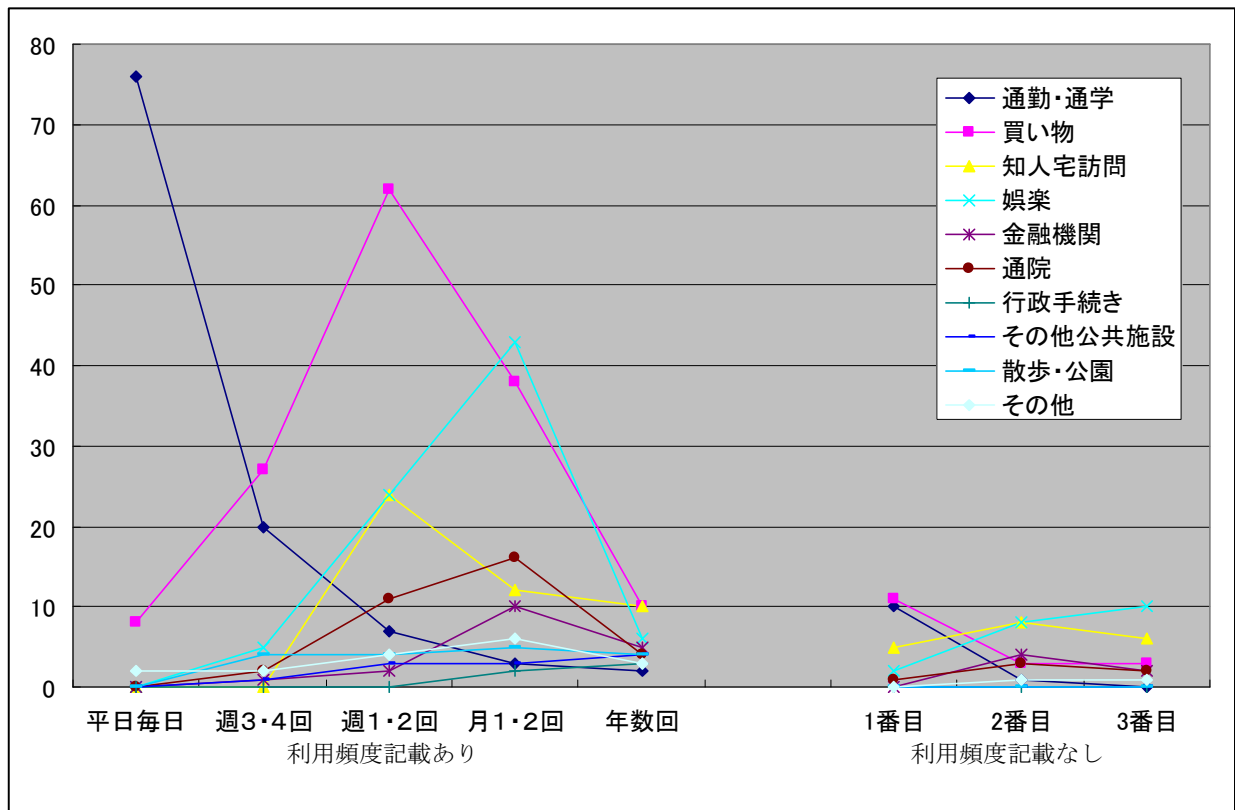


ア. 利用交通機関

回答	利用頻度回答あり					利用頻度回答なし			合計
	平日毎日	週3・4回	週1・2回	月1・2回	年数回	1番目	2番目	3番目	
徒歩	31	27	51	48	14	7	6	5	189
自転車	28	19	42	20	8	5	7	5	134
バス	25	19	42	66	25	20	16	15	228
自動車(運転)	10	9	19	10	7	4	3	6	68
自動車(送迎)	1	1	2	4	2	0	0	0	10
バイク・原付	6	1	0	0	1	0	1	1	10
タクシー	0	0	1	0	2	1	0	0	4
その他	0	2	5	13	7	0	3	0	30
不明・未回答	1	3	7	14	7	4	1	1	38

- 日常の鉄道駅又は目的地までの移動手段の上位3つは、「バス」「徒歩」「自転車」であった。
- 「平日毎日」の移動で鉄道駅又は目的地まで、「バス」を利用していると答えた回答者数は25人で全体（全回答者302人）の8.3%であった。
- 「バス」の利用者が他の交通手段と比較しても最も多くなるのは「月1・2回」「年数回」など頻度の少ない移動においてである。

②移動の目的



イ. 移動の目的

回答	利用頻度回答あり					利用頻度回答なし			合計
	平日毎日	週3・4回	週1・2回	月1・2回	年数回	1番目	2番目	3番目	
通勤・通学	76	20	7	3	2	10	1	0	119
買い物	8	27	62	38	10	11	3	3	162
知人宅訪問	0	0	24	12	10	5	8	6	65
娯楽	0	5	24	43	6	2	8	10	98
金融機関	0	1	2	10	5	0	4	2	24
通院	0	2	11	16	4	1	3	2	39
行政手続き	0	0	0	2	3	0	0	0	5
その他公共施設	0	1	3	3	4	0	0	0	11
散歩・公園	0	4	4	5	4	0	0	0	17
その他	2	2	4	6	3	0	1	1	19

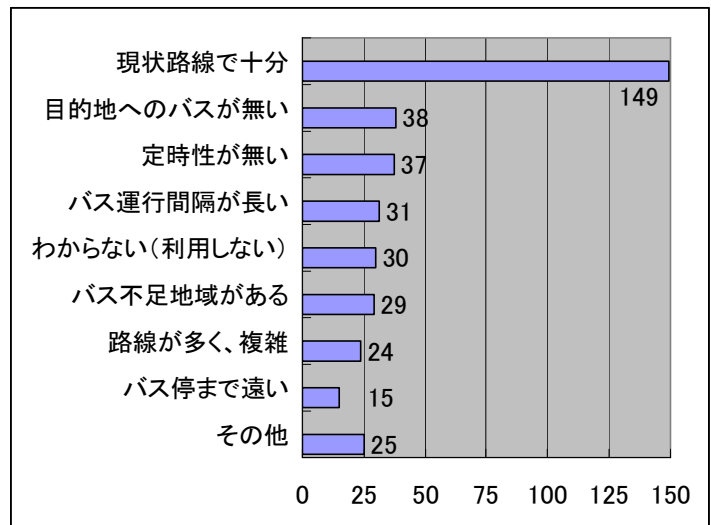
- 「平日毎日」の移動の目的は、「通勤・通学」が圧倒的に多い。その他「買い物」が少しある程度でそれ以外の目的はほとんど見られない。
- もっとも回答数が多い移動の目的は「買い物」であったが、その頻度がもっとも高くなるのは「週1・2回」であった。
- 「行政手続」「その他公共施設」は合わせても16回答しかなく、知人宅訪問や娯楽等と比較しても頻度が低かった。

(3) 現状のバス路線について

現状バス路線について、感じていることを、複数選択方式で尋ねた。回答集計結果は以下のとおり。

①現状のバス路線について（複数選択方式）

回答	回答数	回答率
現状路線で十分	149	49.3%
目的地へのバスが無い	38	12.6%
定時性がない	37	12.3%
バス運行間隔が長い	31	10.3%
わからない(利用しない)	30	9.9%
バス不足地域がある	29	9.6%
路線が多く、複雑	24	7.9%
バス停まで遠い	15	5.0%
その他	25	8.3%



- 「現状路線で十分」との回答が全体の約半分であった。(49.3%)
- 「目的地へのバスが無い」「定時性がない」などの不満を抱えている回答者はそれぞれ全体の10%前後であった。

②「バス不足地域がある」地域名（記述回答）

「バス不足地域がある」について、具体的な地域や施設名等の記載欄への記入は合計25件あった。

■横断路線（6）

「浅田→大師（横羽線）、小田6→幸区方面（市電通り）」、「川崎区から川崎西口、川崎区内横のつながり」「川崎区を横断する路線」「殿町、409号線、産業道路線」、「産業道路沿い、ふれーゆ 小田・浅田⇄京急 産業道路駅」、「四谷上町～渡田方面」

■大師地域（4）

「大師、中瀬」、「川崎大師」、「日ノ出」、「中瀬3丁目 ホームズ辺り」

■本町地域（3）

「本町」、「本町2丁目」、「本町二丁目～川崎駅」

■東扇島地域（2）

「東扇島循環の朝、夕の通勤時間帯」、「東扇島」

■京町地域（2）

「京町」×2

■田島・渡田地域（2）

「田島町」、「渡田小学校」

■その他（各1）

「藤崎1、堀之内町」、「鶴見行き」、「桜本」、「久根崎」、「南部斎苑」、「富士電機」

- 横断路線の具体ルートを記載した回答者が最も多く、6件あった。

③「目的地へのバスがない」地域名（回答数）

「目的地へのバスがない」について、具体的な出発地・目的地の記入欄への記載は合計 37 件あった。

出発地	目的地	出発地	目的地
区内横断路線(9)		区外の周辺地域、施設等とを結ぶ路線(6)	
藤崎	京町	自宅	武蔵小杉
京町通り	市電通り	川崎駅	トレッサ横浜
南町	京急大師線方面 京町方面	京町	生麦
京急大師線沿線	南武線沿線	川崎	蒲田
大師橋	浜川崎駅	川崎殿町	幸区以北
田町	小田 京町方面	川崎	成田空港
四谷上町	京町	地域と医療施設を結ぶ路線(4)	
四谷上町	渡田方面	京町	川崎市立病院
中島2丁目	小田小学校	八丁畷	川崎市立病院方面
地域と川崎駅を結ぶ路線(7)		浅間前	桜本協同病院
小田栄	川崎駅西口	川中島	川崎幸病院
渡田四丁目	川崎駅	地域と商業施設を結ぶ路線(2)	
本町二丁目	駅 東口 西口とも	家の近く	スーパー
本町2丁目	川崎	田鳥支所	ヤマダ イトーヨーカドー ラウンド1
港町	川崎	その他	
日ノ出	川崎	追分	本町
東門前駅	川崎	池田	四谷
地域と公共施設を結ぶ路線(6)		大島1丁目	大島5丁目
京町	川崎区役所		
京町	教文会館		
成就院前or小田栄	教育文化会館or労働会館		
鋼管通	パレール		
桜本	体育館		
小田二丁目	臨港警察署		

- ルートの長短や出発・目的・経由地点等の違いは見られるが、区内横断的な路線の具体ルートに記載した回答者が最も多く、9 件あった。その他、地域と公共施設を結ぶ路線の京町地域と区役所・教文会館等を結ぶ路線、京町地域と市立病院を結ぶ路線等も区内横断路線と捉えることができる。

④「その他」コメント欄記入回答

■現状肯定意見

「現在の路線でしかたないと思う」

■バスは使わないという意見

「片道 1 時間位は歩いてしまうので、あまりバスに乗らない」

「平日の 17 時頃などは渋滞で時間がものすごくかかるため、電車を利用しています」

「ほとんど徒歩でバスには乗らない」「駅が近いため（使わない）」

「最近利用していないので・・・」「ほとんど利用していないのでわからない」

■横断路線要望意見

「市電通り、新川通り、市役所通りをつなぐ路線がない」「東西方向と南北方向のバランスが悪い」

「駅に向かう路線は充実しているが、横への移動は少ないと思う」

■その他の要望

「深夜バスを増やしてほしい」「終バスが早い（深夜料金になる時間が早すぎる）」

「川崎へはほとんど自転車を利用、鶴見行きの本数が多いと助かります」

(3) 区民会議提案新路線について

区民会議が提案するルートを示し、同路線が運行された場合の利用意向の有無、利用意向がある場合の運賃、頻度、時間帯などについて尋ねた。回答集計結果は以下のとおり。

① 利用意向の有無

回答	回答数	回答率
200円	139	46.0%
300円	6	2.0%
400円	2	0.7%
その他料金	7	2.3%
利用しない	118	39.1%
不明・未回答	30	9.9%
	302	100.0%

その他の料金

回答	回答数
100円	2
120円	1
190円	1
250円	1
3ヶ月3000円	1
段階的にあげる	1

- 「利用しない」と回答した回答者、もしくはこの設問に解答しなかった回答者が全体の約半数を占めた。
- 「利用する」と回答した回答者の大部分が、その利用料金については、既存路線の料金と同じ「200円」と回答し、それよりも高額を払っても良いと答えた回答者はほとんどいなかった。

② 利用しない理由

提案路線を利用しない理由を記入形式で尋ねた。回答内容は主に以下の4つのグループに分けることができた。

■「ルートが離れている」「地域が違う」など（計44件）

回答例：「自宅からバス停まで遠い」「自宅から離れている」

■他の交通手段や既存のバス路線を利用する（計32件）

回答例：「自転車や電車が便利」「徒歩で移動するようにしている」「雨の日以外はバスは利用しない」「バスよりも電車の方が早いから。時間が正確だから」「G～Kの移動にも現行バスを利用すると思う」「行政手続などは出張所があるので現状の路線で充分です」「川崎駅まで最短で行ける京町循環のほうが便利」「別ルートで対応可能」

■利用目的や必要性がない。既存のバス路線で充分など（計38件）

回答例：「目的地となるような場所がない」「利用する必要性がない」「生活上必要ないから」「利便性が感じられない」「現在使っている路線で充分なため」「乗る機会がないと思う」

■改善提案や提案ルートの課題指摘を含む回答（計7件）

回答例：「川崎駅西口と区内を直接結ぶバスが増すと交通渋滞が増す可能性がある。」「遠回りとなり、時間がかかりすぎると思われる為」「時間的にも距離的にももっと合理的な交通手段がある」「逆回りであれば利用するかも（駅まで）」「往復で乗るのに不便。駅周辺で循環するなら希望する」「川崎駅まで行くのに余りにも遠回り」

③ 利用意向頻度

回答	回答数	回答率
年数回	51	16.9%
月1・2回	40	13.2%
週1・2回	35	11.6%
週3・4回	20	6.6%
平日毎日	12	4.0%
その他	5	1.7%
合計	163	54.0%

その他の利用頻度

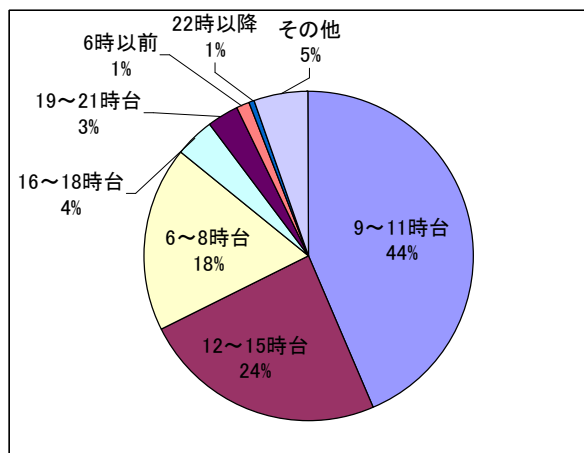
- ・ 雨降時 ・ 天気次第
- ・ 将来通院するようになったら
- ・ やむをえない用事が生じたときのみ

※回答率はこのアンケート調査の全回答者数（302）に対する割合

- 提案路線に対し、利用可能性があると回答したのは、全体の54%、163の回答者だった。
- ただし、利用頻度が低いほど回答数が多い。また既存路線との併用等も考えられ、必ずしも回答者数＝新路線利用者数とはならない。

④ 利用意向時間帯

回答	回答数	回答率
9～11時台	67	43.5%
12～15時台	37	24.0%
6～8時台	28	18.2%
16～18時台	6	3.9%
19～21時台	5	3.2%
6時以前	2	1.3%
22時以降	1	0.6%
その他	8	5.2%
合計	154	100.0%



その他の利用時間帯

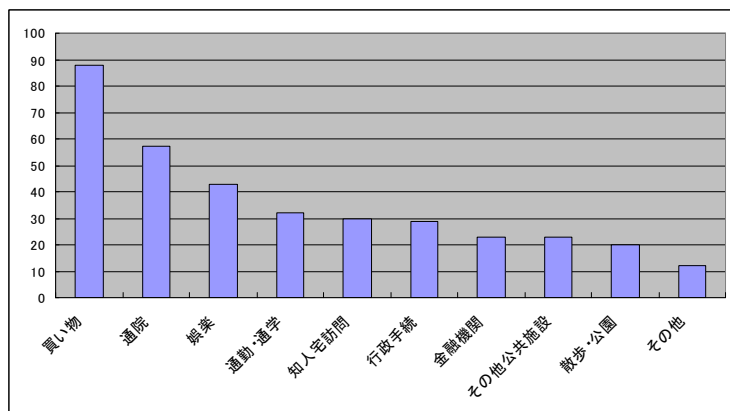
- ・ 特になし ・ 決まっていない
- ・ その時による ・ わからない など

※回答率はこの設問への全解答（154）に対する割合

- 提案路線に対する利用時間帯でもっとも多かったのは「9～11時台」次いで、「12～15時台」となった。
- 通勤利用が最も多いと思われる「6～8時台」は3番目となった。

⑤ 利用目的（複数回答可）

回答	回答数
買い物	88
通院	57
娯楽	43
通勤・通学	32
知人宅訪問	30
行政手続	29
金融機関	23
その他公共施設	23
散歩・公園	20
その他	12



- 提案路線に対する利用目的の上位3つは「買い物」「通院」「娯楽」となり、この3つのみが回答数40以上となった。

(4) 自由記入欄回答抜粋

- ・福岡市内（西鉄バス）では100円バスが市民の気軽な足となっています。この価格だと徒歩で行ける距離でもバスを利用する人（特に高齢者）が増えて、結果的に売り上げ増となったような話も聞いています。一度福岡を視察してみたらいかがでしょうか！
- ・道幅が狭いにもかかわらず、交通量が多い箇所が多い。踏切前にバス停がありますが、危険だと思ふ。
- ・災害時の移動手段についてもっと考えて頂きたい。
- ・川崎駅東口からでも浅草にあるメグリン号みたいな、100円で乗れる循環バスが、走っていれば、ものすごく、たすかるのですが。
- ・市バス、臨港バス共に本数も多く、とても便利に利用させて頂いております。
- ・高齢者の方にとっては、バスで行ける距離が広がることは利点があると思う。
- ・京町通りに「市バス」ルートがほしい。
- ・京町通りから川崎区役所へ行くのに、貝塚か新田橋で降りて歩いて行かなければならないので不便です。川崎駅で乗り換えすると400円になってしまうので往復すると大変です。
- ・中瀬3丁目辺りはバスが通っていないので、川崎大師より先まで来てほしい。
- ・いすず行きがなくなったので浮島行きしかなく本数が少ない。以前は、鉄道を利用していたが、駅までの距離があり、年齢とともにバスを利用しはじめたが、川崎までいくのにとくに朝時間が読めなくて困っている。
- ・浅田から区役所・教育文化会館・サンピアンかわさきに行くのにどこのバス停からも歩きます。もう少し広いエリアでの運行であればと思っております。（京町・小田・浅田）
- ・バスより自転車で行くので駐輪場がもっとあると良い。
- ・私の地域は臨港バスの大師行きしかないので川崎駅方面のお買い物には便利ですが、行政手続や公共施設、体育館、教育文化会館等に行く時は、藤崎四丁目バス停まで行くので歩く距離が長く感じて居ます。今、計画の路線バスルートが実現すれば想定バス停留所が桜本にも出来るので便利になると思っています。
- ・バスの運賃が高い気がする。バスは渋滞で時間がかかる
- ・新たな路線バスができれば、K（小田栄）、M（桜本）に行きたいです。病院は言うまでもありませんが、売場を見て歩く楽しみを希望しているものです。
- ・今現在、自転車・徒歩の移動が多いです。歩行が困難になったらバスルートが多い方が助かると思います。
- ・国道409沿いを通る路線循環バスを希望します。
- ・市電通り、市役所通り、新川通りをそれぞれがつかないでいる路線がない？ので、横につながるとよいかと思っています。
- ・お陰様で利用中の路線は本数も多く、非常に助かっています。ベビーカー乗車の対応を。
- ・川崎駅～渡田小学校前を利用していますが、川崎駅からの最終が23:14なので、23:30と23:45のバスを増やして欲しい。この2本については、深夜料金含め400円でも利用します。
- ・現状のルート、本数で大変満足しています。新しいルートができる事によって利用するバスの本数が減るのではないかと、また行先がいろいろで迷いがでるのではないかと心配です。
- ・駅へは徒歩で行ける距離に住んでいるので不便は感じません。高齢者の方のために、上記A（JR川崎駅西口北）→B（川崎幸病院前）は早急にバスが通ると良いと思います。おつかれさまです。
- ・川崎駅東口～西口間の移動が不便なので今回の提案されている路線ルートを是非採用していただきたいです。
- ・自動車があるため、他の交通手段は、使いませんが、自宅近くに駅があり、タクシーも頻繁に通っているので便利である。
- ・私共の家は旧東海道本町2丁目です。バス停はありますがバスが朝夕1本ずつで、土日祝日は皆無となります。バスを通して下さい。せめて銀柳街までバスをお願いします。銀柳街まで行けば、四方八方のバスがあり、乗り継げば問題なく目的地に行けます。徒歩で本町2丁目から銀柳街まで25分～30分かかります。真夏真冬あるけたものではありません。お願い致します。
- ・K（小田栄）→L（大島四ツ角）の間に1ヶ所停留所がほしいです。日本鋼管病院の近くに。N（藤崎4丁目交差点）→O（藤崎1丁目交差点）→大師駅→P（労働会館前）、大師駅を入れてほしいです。
- ・出来ましたら鶴見区の生麦駅から川崎区の大師駅行き（産業道路の道）があればとてもうれしいです。川崎駅に向う縦の道の路線はあるのですが、横の路線が無くこれから年をとって行く中で、移動手段が無くなる事がとても不安です。
- ・夕方は川崎駅方面へ向かう道路が混み合い過ぎと思います。自転車が早いと感じます。
- ・産業道路を南北に結ぶ路線バスを充実させてほしい。

だい き かわさきく くみん かいぎ いいん めいぼ
第4期川崎区区民会議委員名簿

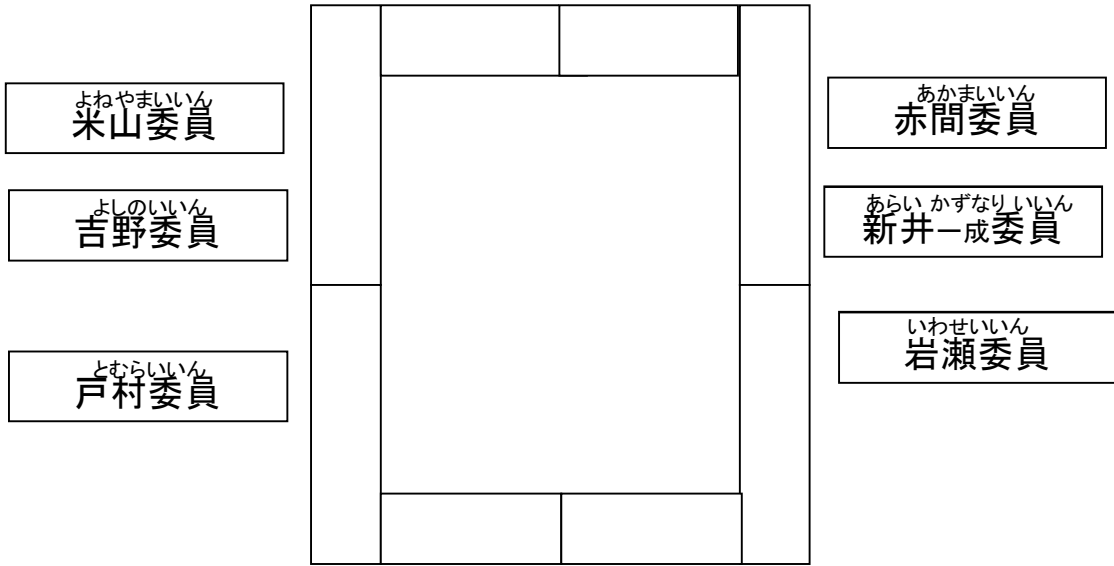
べっし
別紙1

にんき へいせい ねんがつついたち へいせい ねん がつ にち
任期：平成24年4月1日から平成26年3月31日まで

No.	分野	推薦団体	ぶかい 部会		
			みんな	すこやか	
1	あらい ときこ 新井 トキ子	だんたいすいせん ぼうさいちいきこうつう 団体推薦【(1)防災・地域交通】	かわさきく あんぜん あんしん 川崎区安全・安心まちづくり推進協議会		○
2	いしわた かつろう 石渡 勝朗		かわさきく ほごしかい 川崎区保護司会		○
3	すずき しん 鈴木 真	だんたいすいせん ふくし けんこう 団体推薦【(2)福祉・健康】	かわさきく いしかい しやだんほうじん かわさきしいしかい 川崎区医師会（社団法人 川崎市医師会）		○
4	とみた よりと 富田 順人		しやかいふくしほうじん かわさきし かわさきく しやかいふくしきょうぎかい 社会福祉法人川崎市川崎区社会福祉協議会		○
5	こいずみ ただゆき 小泉 忠之	だんたいすいせん こそだ きょういく 団体推薦【(3)子育て・教育】	かわさきく みんせい いいん じどう いいん きょうぎかい 川崎区民生委員児童委員協議会		○
6	はた たくじ 秦 琢二		かわさきく きょうぎかい 川崎区PTA協議会		○
7	ふじおか れいこ 藤岡 玲子	だんたいすいせん しぜん せいかつかんきょう 団体推薦【(4)自然・生活環境】	かわさきく しみん けんこう もりうみかぜ もり まず かい 川崎区市民健康の森海風の森をMAZUつくる会	○	
8	とむら まさふさ 戸村 正房	だんたいすいせん さんぎょう かつりよく 団体推薦【(5)産業・まちの活力】	かわさきく たうんまねーじめんと きかん 川崎タウンマネジメント機関	○	
9	よしの ちさお 吉野 智佐雄	だんたいすいせん ぶんか かんこう 団体推薦【(6)文化・観光】	とくていひえいりかつどうほうじん かわさき うれしき がいど まほうか 特定非営利活動法人かわさき歴史ガイド協会	○	
10	よねやま みのる 米山 実		かわさきく ぶんか きょうかい 川崎区文化協会	○	
11	あいはら あきら 藍原 晃		かわさきく れんごうちょうないかい 川崎区連合町内会	○	
12	あかま やすお 赤間 靖夫	だんたいすいせん ちいきそしき 団体推薦【(7)地域組織・まちづくり】	かわさきく まちづくりくらぶ 川崎区まちづくりクラブ	○	
13	てらお ういち 寺尾 宇一	だんたいすいせん ちいきとくせい 団体推薦【(8)地域特性】	かわさきしょうこうかいぎしょ 川崎商工会議所	○	
14	あらい かずなり 新井 一成		—	○	
15	いわせ きぬよ 岩瀬 絹代	こうぼ 公募	—	○	
16	きじま ちえ 木島 千栄		—	○	
17	もりわき たくろう 森脇 卓郎	くちょうせんニン こうれいしゃかんけい 区長選任（高齢者関係）	—		○
18	はら ちよこ 原 千代子	くちょうせんニン たぶんかきょうせい こどもかんけい 区長選任（多文化共生、子ども関係）	—		○
19	ふかさわ かおり 深澤 香織	くちょうせんニン こどもかんけい 区長選任（子ども関係）	—		○
20	ちねん じょあんな 知念 ジョアンナ	くちょうせんニン がいこじんしゅみん 区長選任（外国人市民）	—		○
				10	10

だい かい ぶかい ざせきひょう
第5回みんなのまちづくり部会 座席表

あいはらぶかいちよう
藍原部長



はらだきかくちよう
原田企画課長

きたざわふくくちよう
北沢副区長



じむきょく
事務局

じむきょく
事務局

